

2016年2月号 第348号 bestopia.jp パリ通信 第50号 jkoga.jp

# 高校生諸君へ

# はじめに

今回のテーマは満州事変ですが、その10年前の1920年からの主な世界の動きを振り返ります。(今回から「です」「ます」調から「である」調にします。)第一次世界大戦は国民総力戦となり、銃後の市民が巻き込まれることになった(従来は戦争を職業軍人だけで遂行する。銃後の国民は戦況を見守るのみ)戦場となったヨーロッパでは4年間の戦争の間に膨大な数の才能あふれる若者たちが戦場に送られ、ナポレオン戦争をはるかに超える1000万人以上の死者、2000万人以上の戦傷者を出した(この数字は戦闘員の集計で、非戦闘員を加えるとはるかに数字は多くなる)

人類が戦慄するほど悲惨で国土の荒廃の甚大な戦争を見て、戦争の恐怖と悲劇を学びヨーロッパは二度と戦争を繰り返したくはないとの切なる願いが呻きだした。平和実現の希求が政治課題の主たるテーマとなった。

「戦争は、人類と同じくら古いものであるが、平和は近代の発明である」 (英国・サー・ヘンリー・メイン)の言葉があるように政治の世界で平和を確立するために真摯な議論がなされるようになった。

第一次世界大戦の日本の戦死傷者は1250人、日本は戦争の悲劇を経験せずして戦勝国となり、ドイツから南洋諸島の権益を手に入れた。政治家の中には「天佑」として喜んだ者もいた。

この圧倒的な数字の違いが1920年以降、ヨーロッパの「平和への志向」と「軍備増強・権益拡大志向」を目指す日本の潮流に違いを産むことになった。

更に世界の動きを複雑にしたのが革命後のソ連の共産思想のコミュンテル活動の活発化が始まった。

以下は年代を追って簡潔に時代を追って見ることにします

①1920年1月国際連盟成立、従来の国際秩序を根本から変革して、より確かな平和を創ろうとする努力が見られる。前文書き出し「締約国は戦争に訴えないという義

務を受諾しーー」 第8条「連盟加盟国は、平和を維持するためには、国の安全と国際的な義務遂行のための共同行動実施とに支障がない最低限度まで、その軍備を縮小する必要があることを承認する」日本は常任理事国として加盟した。

②1921年11月平民宰相・原 敬が暗殺される。

ワシントン会議が始まる。ワシントン会議の概要は次の3点

日英同盟の廃止

9ヶ国条約で中国の主権を認める

海軍軍縮、主力戦艦保有割合が英米の5に対して日本が3となる。

海軍からの反発が強くなる。

中国共産党が誕生、ソ連からの影響が出始める

- ③1922年日本共産党が非合法で成立。
- ④1923年9月(大正12年)関東大震災死者行方不明者10万人を超える被害。 12月虎ノ門事件、皇太子が狙撃される。無事であったが内閣は総辞職
- ⑤1925年、治安維持法制定「国体を変革し又は私有財産制度を否認することを目的として結社を組織し、又はそれを知っていながら加入した者は10年以下の懲役又は禁固に処す」国体の変革とは万世一系の天皇制の否定を意味しこの法律は共産主義者の取締が目的である。3年後、更に厳しい罰則に改正される。
- ⑥1926年(昭和元年)金融恐慌、関東大震災の救済措置として発行した「震災手形」の期日が来ても決済できない会社が続出。渡辺銀行の倒産、取付け騒ぎは翌年にも続き、休業した銀行は27行に及ぶ
- ⑦1927年、モラトリアム(支払猶予令)、紙幣を大増刷作戦、 山東出兵(先月号参照)
- ⑧1928年、張作霖爆殺事件、中華民国主席に蒋介石が就任。
- パリ不戦条約(ケロッグ・ブリアン条約)の調印

「締結国は国際紛争の解決の為、戦争に訴えることをせず、且つその相互関係において、国家の政策の手段としての戦争を放棄することを、その各自の人民の名において厳粛に宣言する」

これは戦争放棄を明確に規定した画期的なもので平和を熱望する国際思想の絶頂と言われている。歴史上始めて戦争全般が違法とされた。

日本は「人民の名において」の文言が天皇主権を無視しているので、この条項は日本に適用しないことを宣言して調印した。

治安維持法が改正され、「国体を変革することを目的として結社を組織したる者又は結社の役員その他指導者たる任務に従事したる者は、死刑又は無期若しくは5年以上の懲役若しくは禁固に処す」として共産党を弾圧している。

- ⑨1929年ニューヨーク株式市場大暴落、世界恐慌へ、日本は恐慌から恐慌へ 日本のアメリカへの輸出の主な繭(絹織物)の価格が急落、米が台湾米が入ってき て価格が下がる。農家の二本の柱が折れた。農業恐慌「娘の身売り」「欠食児童」 そのような国内情勢のもと国民の希望を満州に向ける計画が立案されていく。
- ⑩1930年ロンドン海軍軍縮会議、補助艦交渉「あらかじめ海軍軍令部と政府の間で対米7割を最終の線にしよう」と合意がなっていたが結論として7割を割っての調印となった。天皇に代わって海軍の統帥を輔弼している軍令部の約束を破ったということは「統帥権を干犯」したとして浜口雄幸首相を攻撃、東京駅で狙撃され翌年死亡。
- ①1931年金輸出再禁止(金輸出解禁は1930年1月)経済の混乱を象徴する経済政策の激変が続く。9月18日「柳条湖事件」
- ②1932年3月1日満州国建国宣言、日本の承認は9月15日、 10月2日、リットン調査団報告書国際連盟に提出
- ③1933年2月24日国際連盟脱退、国際孤立化。
- 5・15事件、軍事政権を目指した右翼団体によって犬養毅首相「話せばわかる」「問答無用、撃て」と襲撃され死亡。

以上簡略ですが国際環境の中で孤立を深める日本の潮流は軍国主義で当面の目的を 満州として計画的な戦闘状態を造っていきます。

有名な話しを一つ追加します。

1931年9月10日国際連盟設立に尽力したイギリスの政治家セシル郷は連盟総会の席上で「現在ほど戦争が起こりそうにない時代は、世界史の中でも稀である」と述べていた。ところがその僅か1週間後に満州事変が起こる「それまで積み上げられた平和主義の積み木をなぎ倒すかのように」

満州事変は単に日中間の軍事衝突にとどまらない巨大な衝撃を国際社会全体に与えたのである。

# 満州事変

# 1, 関東軍の鼓舞勇躍を支えた言葉

先ず、関東軍を勇躍させた二つの資料を紹介します。

これらの資料を念頭に置くとことによって関東軍の動きが理解し易くなります。

### (1)松岡洋右の演説

満州事変の契機となる柳条湖事件の勃発した日に関する松岡の見解

「昭和6年9月18日という日は、吾々日本国民の忘れることの出来ない、極めて厳粛なる意義を持っている日である。私は信ずる、この日は、我が大和民族歴史上、永久に燦然たる光輝を放つべき日である。何となればこの日、我が生命線確保のため、日本国民は蹶起したのである。支那兵の不法なる鉄路破壊に対して、我が関東軍が久しき隠忍、自軍の堪忍袋の緒を切って蹶起したのであるから、これはひとり関東軍のみが蹶起したのではなくて、日本国民が蹶起したというべきである。即ち日本精神が爆発したのである。単にそれだけではない、私の見方からすれば、我が国民の生命線確保のために蹶起しただけではなしに、この日を門出の日として、我が大和民族は、明治天皇の御遺策であり、わが国の一大国是であるところの東亜全局保持、東亜全局を安定させるという大方針に向かって一路邁進することとなったのである。」松岡洋右著「興亜の大業1941年刊)

日本の大陸侵略は「大和民族の生命線確保」であり、「明治天皇の御遺産である」との発言によって誰も批判することができなくなった。

### (2)「満州事変に際し関東軍に賜りたる勅語」

これは1932年1月18日天皇のお言葉、『関東軍は自衛の必要上、素早く事変に対処して、各地の蜂起したゲリラを掃討し、非常な困難を克服して、よく頑張った。そのことを朕(天皇自身)は、喜び褒めてやる。これからも耐え忍び、もって東洋平和の基礎を確立し、朕の信頼に応えるように努めよ』

天皇が関東軍の戦争を認め、更に継続を命じられたことによって、関東軍は最高の名誉を得、過剰な自信を持つことにたった。関東軍はこれから後に国際法規、国際連盟を無視した武力行使を強行することになる。

又、満州事変の目的が「東洋平和の基礎を確立する」ためのものであることが明らかになった。

この二つの言葉が関東軍の存在価値と優越的立場を与える根拠となったと私は考えます。

# 2、満州事変の全貌

広義の範囲と時期は1931年9月18日の柳条湖爆破事件から1935年5月31日塘沽協 定迄である

戦闘時期は東北三省を占領する時期、上海事変を起こす時期、満州に戻って熱河作戦に区分できる。国際連盟の勧告、リットン調査団派遣があるが、満州国は1932年9月建国され、日本は国際世論の批判を嫌って1933年2月24日国際連盟を脱退する。その後も侵略は続き北京に迫り、満州国だけでは飽き足らず華北5省(地図の

黄色)を中華民国から分離しようと準備するこの一連の過程が満州事変である

# 3,満州事変の 計画と実施

昭和2年(1927年) に石原完爾による『現 在及び将来に於ける 日本の国防』の中に 記された『関東軍満 蒙領有計画』が出発 点となっている。昭和 3年(1928年)に関 東軍作戦主任参謀とし て満州に赴任し関東 軍による満蒙領有計 画を具体的に立案す る。3年後、昭和6年 (1931年) に板垣征 四郎らと柳条湖事件 爆破事件を起こし満 州事変を実行し、23



万の張学良軍を相手に、わずか1万数千の関東軍で4年と18日で地図のピンクの部分(日本本土の2.5倍もの面積を持つ)満州国を建設した。地図には清朝時代の東

北三省に熱河省が加わっているが熱河省は万里の長城の北側(外側)で、中国では 万里の長城の南を関内(北京に近い)と呼び北側を関外と呼んでいる。山海関は万 里の長城が海に落ちていく所が山海関で、ここは戦略上重要な場所である (前ページの地図は帝国書院・図説日本史通覧より転写加工)

# 4,柳条湖事件の前哨となる二つの事件

柳条湖事件そのものは花火が炸裂したくらいの程度で列車はその後問題なく通過している。仕掛けたのは関東軍であることは定説になっているので割愛する。 前哨線に二つの事件があった。(1)万宝山事件と(2)中村大尉事件とである。

### (1)万宝山事件

1931年5月朝鮮人農民400名(本国で日本の東洋拓殖会社に土地を奪われた流浪の貧農民)を満州開拓のため関東軍が長春の万宝山付近の開墾地に送り込んだ。 土地を勝手に横断された中国人農民とにらみ合いとなった。この騒動は双方の努力で事件にはならなかった。

然し、関東軍は朝鮮の新聞に大袈裟な報道記事を掲載させたことで朝鮮全道に激烈な反中国暴動が続発した。7月に中国人127名が虐殺されたが、日本側の官憲は暴動を阻止するための適切な手段を講じなかった。次の作戦で朝鮮軍の中国軍への戦闘志気を高めることにあった。

9月19日、日本の指揮下にある朝鮮軍を国境である鴨緑湖を超えて中国国内へ進軍させた。兵力を国外に出す場合には閣議決定参謀本部の天皇への輔弼(進言)そして天皇の奉勅命令と許可が必要であった。これに違反するものには厳罰(死刑、無期禁固刑)が課せられることになっていたが日本政府は最終的に黙認した。1930年の浜口雄幸首相が統帥権干犯として攻撃される事件と比較すると関東軍の暴挙は見過ごすことができないはずであるが「満州事変に際し関東軍に賜りたる勅語」の故に既成事実を黙認したと考える。

### ②中村大尉殺害事件と柳条湖爆破事件

1931年6月、参謀本部から派遣された中村大尉一行は対ソ戦に備える地図作成のために観光旅行と称して身を偽って外国人立入り禁止区域に潜入したところを射殺された。この事件は中国現地では隠蔽され政府側が真相を認めたのが9月16日であり顛末報告期限が18日と定められていた。中国側はその日の午後、外交交渉による解決を申し出をしたが、関東軍はそれを拒否してその夜午後10時半柳条湖を爆破した。爆破は花火程度の発火であって、直後も列車は異常なく通過出来ていたが、これは事変始まりの合図であった。関東軍は中国人の仕業であり、犯人を射殺した

等々の話しは今日ではすべて虚偽の報告であって、この事件は自作自演であったことは常識化している。

国民政府(南京)の蒋介石は徹底した不抵抗主義を貫いたため、関東軍は「中国は、 ただ強烈な攻撃さえ加えれば、容易に屈服させることができる。大軍を派遣して、 思う存分打撃を与えれば問題は簡単に解決できる」と確信するにいたった。 軍国主義が大手をふってまかり通るようになった。

# 5, 蒋介石の対応・国際連盟の対応

1931年9月、ジュネーブで第12回国際連盟総会が開催されていた。蒋介石は関東軍に停戦と占領地域からの撤兵を要求したが無視されたので、紛争の平和的解決を望み国際連盟に提訴した。

中華米国公使ジョンソンの事変の分析は本質をついている。

「これは日本の侵略行為であって、長い時間をかけて計画されたものであって、それを注意深く且つ組織的に実行に移したことが明瞭である。この攻撃が偶発事件の結果であるとか、或いは責任の地位にない下級の官吏の行為であるという証拠は発見されない。満州における日本の軍事行動は「戦争に関するいかなる定義にもあてはまる」と確信する。従って1928年のケロッグ・ブリアン条約の義務を無視して故意に遂行したものである。」

これが国際社会の見解となって、世界の各地で日本品不買運動が起きる。これはボディブローのように日本の経済に悪影響をもたらすことになる。

# 6、国際連盟を震撼とさせた錦州攻撃とその狙い

この会議中も関東軍は地図の通り進攻し10月8日石原完爾の立案で錦州空爆を行い八八式偵察機6機、ポテー機5機による空爆で25kg爆弾75発を投下し、機銃掃射も行った。爆弾は市内のいたるところにに落下し病院や学校にも被害を与え市民にも死傷者がでた。

## 錦州攻撃は空爆の実験?

1931年10月8日の、関東軍の錦州攻撃は、「空爆」という新しい戦争の形態を実験的に試みた。(私見)

空爆とは戦略爆撃と言われ、軍事施設のみならず、民間施設、交通網をも差別なく 戦略目標として、航空機を用いて爆撃する戦闘の手段である。第一次世界大戦は塹 壕戦による泥沼の中での戦車による地上戦が主な戦闘の方法であり、戦場の範囲が

### 錦州爆撃に使用された飛行機

昭和6 (1931) 年10月8日、奉天から出撃した関東軍の独立飛 行第十中隊が張学良の司令部がある錦州を爆撃した。出撃したの は八八式偵察機6機と、ボテーズ25型偵察爆撃機5機であった。

八八式偵察機は、川崎造船所(現在の川崎重工業)がドイツ人技 師リヒャルト・フォークト博士を招聘して開発し、陸軍に制式採 用された機体であった。ボテーズ25はフランス製の旧式複葉機で あったが、航空レースでたびたび優勝したことのある優秀機で、 日本を含む各国で採用されており、このときの機体も陸軍が購入 したとも、張学良軍から捕獲した機体だったともいう。

錦州への飛行には、石原莞爾中佐も「偵察」と称して旅客機で同 行した。正午に奉天を出撃した飛行隊は午後1時40分、錦州上空 に到達し、市内の張学良軍司令部や兵営などを目標として25kg爆 弾75発を投下した。石原機と八八式偵察機は爆弾を真田経で機外 に吊し、目標上空で紐を切って爆弾を投下したが、この際、石原は 手を負傷したという。

戦後、錦州爆撃は東京裁判で問題となったが、石原は最後まで 「偵察であった」とつっぱね、戦犯とはならなかった。



国際法で決められていたので非戦闘員が死の恐怖に日常的に直面することはなかった。にもかかわらずヨーロッパの死者は1000人を超えたことについては先に記した通りである。戦略爆撃によって無抵抗な市民を空から殺戮するという新しい戦争の方法は、相手方国民の全員に恐怖と戦意の喪失を与え優位に戦争を進めることができる。(理論的には1921年イタリア陸軍の元将軍ジュリオ・ドゥーエが戦略爆撃の書『制空』を出版していたから国際連盟加盟国も不知ではなかった)

航空機から爆弾を投下することは破壊範囲が広がり非戦闘員・非戦闘地域をも殺傷破壊から除外することはできない。それは当然の結果として無差別爆撃となる。学校、病院、宗教施設が例外になることもない。

総力戦下では戦闘員・非戦闘員にかかわらず毎日が戦場にあって不安、恐怖、危機、死と向き合う日常となる。航空機の発達と爆弾の進化が被害を甚大にする。その幕開けを石原完爾は自ら飛行機に乗り込み爆弾をさなだ紐で吊し目標を狙って紐を切断するという方法で爆弾を投下した。

自身も切断の失敗で火傷を負っている。搭乗していたのは偵察機であったので戦略 爆撃ではないと主張していたが当時のヨーロッパの人々には大きな衝撃を与えた。 そして、錦州攻撃は新しい戦闘の時代の幕開けを告げることになった。

1936年3月、ムッソリーニのイタリア軍がエチオピア東部の都市ハラールで戦略爆撃を行った。 1937年4月にはスペインのゲルニカにおいてドイツ空軍が行った。

1939年5月日本軍は中国の重慶において激しい戦略爆撃を行い多くの非戦闘員が死傷した。日本軍が錦州で用いた戦略爆撃という手法が着実に世界に普及していった。

(写真は「太平洋戦争の記録・エリック・デュシュマン編集・開戦前史より転写)

日本は原爆は特別としても東京大空襲始め主要都市他多くの地方都市でその被害を受けた。空から無差別に爆弾が降ってくる恐怖をまさに身を以て学ぶこととなった。

国際連盟ではこの事件を聞いて「あたかも雷が落ちてきたかの如く、殆ど連盟全体が振動した」との日本外交官の報告がある。日本への非難の声が一層高まると同時に不拡大方針をとる政府が関東軍を制御できないことへの不信感が強まり政府は窮地に追い込まれた。

中華民国は直ちに連盟に提訴し緊急の第2回理事会が10月13日開催された。 連盟に加盟していないアメリカがオブザーバーとして参加することになって、日本 の立場は厳しい非難を浴びて一層悪くなった。

12月10日にも第3回理事会を開催したが、その間も関東軍の進撃は止まなかった。年が明けた1月14日理事会は全会一致で日本の提案した中国全土を調査するリットン調査団である派遣を決定した。。

関東軍は満州への国際社会の目をそらせるために、戦闘地域を南に移して抗日排日 運動の激しい上海で戦闘を起こす戦略をたてた。そしてリットン調査団が到着する 前に既成事実として満州国を建国させることを急いだ。

# 7, 第一次上海事変

①ことの始まりは1932年1月18日の桜田門事件である。

1932年1月18日恒例の陸軍事始めの観兵式が昭和天皇隣席のもとに東京代々木の練兵場で行われた。観兵式から皇居に戻られる途中で天皇の馬車に手榴弾が投げつけられるという事件があった。(桜田門事件)

犯人は朝鮮独立運動の一員で天皇暗殺が目的であったが未遂に終わった。この日に 冒頭に紹介した天皇の「満州事変に際し関東軍に賜りたる勅語」が渙発された。

②桜田門事件は国内外にも報道され、上海の民国日報社の記事が問題となった。

「不幸にして僅かに副車(お付きの車)を炸く」(不運なことに侍従の車を少し破損させた)この記事に対して上海に住む日本人(居留民)は「不敬である」といって集団で上海市長に抗議をした。

③上海では満州事変が始まると抗日救国連合会が組織され80万人の労働者が結集 するほどに反日・抗日運動が激化していた。日本商品の不買運動は主婦層をも巻き 込んで空前の広がりをみせていた。

当時約2万3千の日本人居留民が在住していたが彼らも愛国心から「暴戻支那を断 乎膺懲すべし」と常に気勢を奮っていた

こうした中国人と居留民との間の不穏な空気は謀略を狙う関東軍には願ってもない 状況であった。 ④この騒ぎを利用して陸軍少佐田中隆吉(裏の任務は諜報工作を専門とする特務機関員であった)は板垣征四郎に頼まれた謀略を実行した

依頼されたのは1月10日、内容は「満州事変は当初予期せる如く進展しつつあるが、世界列強の反対を考慮し、満州国独立の実現が困難である現況に鑑み、貴官(田中を指す)におかれては上海における日支間の険悪なる情勢を利用し、上海において日支間に事件を起こし。世界列強の目を上海に集中させ、満州国独立の早期実現容易ならしむべし」とし板垣は工作資金2万円(現在価値約1700万円)を田中の口座に振り込んだ。田中は愛人の川島芳子(男装の麗人として有名)に1万円を渡し中国人による日本人襲撃の裏工作を指示した。

⑤上海には反日・抗日姿勢の強いタオル製造会社三友実業社があったが、芳子に買収された三友実業社の抗日義勇軍が1月28日、日蓮宗の日本人伝道僧の行列を襲った。3名が重傷を負い1名は死亡した。

翌日、芳子は上海在住の日本人義勇軍団に金を渡し三友実業社への報復を依頼し、暴力沙汰の後に放火した。この事件で上海はパニック状態となり市街戦へ発展した。日本は海軍陸戦隊1000名、中国軍は35000人の大軍が投入された。苦戦となった日本海軍は陸軍に支援を要請し2個師団が増援、中国軍も新たに5軍を増援するという激戦となった。。戦闘は本格化し3月3日迄続き上海の中国人死者は6080人行方不明者10400人負傷者2000人、日本側の戦死者769人、負傷者2322人が示すように上海市の被害は甚大であった。

この上海事変に世界の耳目が集まっている間に関東軍は新国家樹立へ向けて急速に 進み上海事件の解決の為に開かれる国際連盟臨時総会開催の3月3日の二日前の 3月1日満州国建国の宣言をするという作戦を成功させた。

事変の結末は日本側が優勢で終わり中国軍を租界境界線から20km外に撤退させた。 中国軍は租界周辺を駐兵制限区域とされ、日本軍への事前通告なしには通過することができなくなった。

# 8,満州国建国と満州議定書

上海事変の最中1932年2月29日、リットン調査団が来日、その翌日3月1日、傀儡国家、満州国の建国が長春で発表された。

このタイミングに調査団がどのように感じたか?

既に情報を得ていたのか?

いずれにしても日本の奇策は繰り返されていく。

リットン調査団は上海を視察した後、満州の調査にのりだしたのが4月21日であった。調査団の報告書が提出される前にできるだけ多くの既成事実を造る当初の作戦を完遂するため、参謀本部の「不拡大」の指示を無視して戦火の拡大をつづけた。

9月15日、日本は満州国を正式に承認し「満州議定書」に調印した。

リットン調査団の報告書の発表約2週間前である。

### 議定書の内容要約

「日本国は満州国のその現地の住民達の自由な意思によって成立したものであり、 独立の一国家として成立したことを確認する。日本国政府と満州国政府は両国間の 善隣友好関係を永遠に守っていくことにする。

日本と満州国、両国は、共同して満州国の防衛を実現するために、日本軍が満州国 内部に駐屯することができる」経済と国防は不可分一体の関係、即ち日本国の保護 と援助が約束され満州国は従属国となった。

この時の満州国の領土は中華民国の東北三省に内蒙古の東部(地図では熱河省とその他)が加わっていた。その総面積はフランス・ドイツ・イギリス本国を合わせた面積に匹敵するものであった。

# 9,総会可決のリットン調査報告書と国際連盟脱退

リットン調査団の報告書は1933年2月24日国際連盟総会で可決されたその内容は前年10月2日の発表より厳しい内容となった。

リットン調査団の報告書(最終可決)の内容

- ①連盟規約・不戦条約・9ヶ国条約の規定・連盟における協議の尊重
- ②満州国における中国の主権を認める。前年9月30日の決議により日本軍は鉄道路線内へ退去すること。総会が任命する委員会立ち会いのもとで日中交渉を行う。
- ③紛争当事国日中以外の連盟国は「満州国」を承認しない

日本は受け入れられないとして国際連盟を脱退する。(日本は国際連盟脱退を2月 20日の閣議で決定していた)

{この総会の日本全権大使は松岡洋右でこの日の演説は特に有名で前後の事情を学ばなくてもこの演説の勇猛な姿はよくテレビで放映される}

日本の脱退に続いてヒットラーのドイツ、ムッソリーニのイタリアが脱退してこの 3国は後に同盟国となって第2次世界大戦に臨むことになる。

# 10, 国際連盟脱退前後の関東軍の熱河作戦

清朝時代、熱河はチャハル、スイユエンと共に内モンゴルの一部であった。1914年中華民国は熱河省とした。満州とはもともとは東北三省(吉林省、遼寧省、黒竜江省)であって、満蒙という場合熱河は蒙に属していた。関東軍は満州国建国の計画段階から熱河省も新国家の領土にいれて支配することにしていた。熱河はアヘンの栽培で貴重な財源になることが分かったからである。

### ①1932年7月17日、朝陽寺事件

関東軍嘱託の石本権四郎が熱河省内の朝陽寺で張学良の軍に拉致されたことから戦闘が始まった。リットン調査団が調査中であったので政府は慎重な行動をするように勧告した。この事件は長期化した12月20日石本は殺害されていたことが判明した。張学良がアヘンの権益を奪われるのを阻止したとも言われている。次の事件への引き金となった。

### ②1933年01月01日、山海関事件

山海関には1900年の北京議定書に基づいて守備隊 5 0 人の駐屯が認められていた。 守備隊長、落合基九郎少佐が自分たちの手で手榴弾を鉄道に投げ込み、張学良の謀略であるといって中国側に要求を突きつけた。張学良は 2 月24日日本軍に敗北し蒋介石と会談して張学良の東北軍は解体され4箇師団が蒋介石軍に改編された。

(蒋介石の狙いは張学良のような北洋軍閥の一掃を日本軍に任せたと思われる側面がある。)

### ③1933年3月27日灤東(らんとう)作戦

目的は拡大して万里の長城線を満州国の国境にすることとなった。

4月10日関内(長城線の南側・北京寄り)へ侵入した。

蒋介石も山海関を「天下第一関」と呼んでいた程ここの突破は中華民国にとっては 存亡の危機である。天皇の指示で中断された。

### ④1933年5月3日関内作戦

上記天皇の指示に疑義を持っていた関東軍は準備を整え、関内作戦を挙行した。 5月22日-23日には北京から僅か30kmにまで迫り、中国軍は停戦を申し出た。

### ⑤塘沽協定

5月31日軍事事項だけに限定した「停戦に関する協定」が塘沽で成立し、満州事変は終結した。

### 協定内容の概要

中国軍は協定する都市の以西以南に一律撤退すること。

日本軍はその実行を確認するため随時飛行機その他の方法によりこれを視察する。以上が確認できれば日本軍は長城の戦に帰還する。

中国蒋介石は何故このような屈辱的な協定を承認したのか? 蒋介石は日本との武力抗争については徹底した不抵抗主義を貫いた。

「共産軍討伐完了前は絶対に抗日を言うことは許さず、違反すれば最も重い罰を与える」と言うほどに共産軍との戦いを優先した。それほどに共産化に脅威を感じていた。

### 終わりに

満州事変が世界に与えた衝撃を日本人は理解していなっかたと言われています。その深刻さについのヨーロッパ諸国の識者の意見を纏めてみました。

#### ①イギリスのE・H・カー

「日本の満州征服は第一次世界大戦後のもっとも重大な歴史的・画期的事件の一つであった。太平洋では、それはワシントン会議によって暫く休止していた争覇戦の再開を意味した。世界全般についてみると、それは第一次世界大戦の終結以後少なくとも露骨な形では現れなかった権力政治への復帰を予告するものであった」②外交史家・ザラ・スタイナアー

日本の指導者たちは、民主主義的な道のりを歩むことを拒絶して、満州の問題に 対して軍事的な解決を好んだ。これらの事態の重要性は、単なる地域紛争の枠を超

えていた。日本の行動は、9ヶ国条約に対する挑戦であるばかりか、国際連盟規約、 さらにはケロッグ・ブリアン条約に対する挑戦でもあった。

③国際連盟事務局で事務次長を務めたイギリスのF・P・ウォルターズ

「1931年9月18日に始まった日本の満州占領は国際連盟の歴史、さらには世界の歴史における転換点となった」(細田雄一著・歴史認識とは何かP135-137)

これらの意味するところは、後にムッソリーニのイタリアも、ヒトラーのドイツも 日本の満州事変での軍事行動を見習って、国際秩序に挑戦して自らの権益拡大へと 動いていった足場を造ってしまったということです。

参考文献・山中 均著・アジア太平洋戦争史(上) 加藤陽子著・それでも、日本人は「戦争」を選んだ

本稿の目的は上記、加藤陽子著を理解する前提の知識を得ることです。 高等学校日本史B基準の維持を目指しています。